

連載特集 一衛星余話一

本誌編集委員 風神 裕

少し異なる視点からの宇宙開発の歴史（2）



読者からの反響は殆どありませんでしたが、2月の編集委員会にて連載の許可が下りたので、続けます。

今回はロジャームーアです。彼は第8作の「live And Let Die」から第14作の「A View To A Kill」までの7本に出演しています。参考の為、前回と同じ表を掲載します。余談ですが、「A View To A Kill」は私の一番好きな作品です。

Year	Movie Title	James Bond as	Topics
1962	Dr. No	Sean Connery	Rocket
1963	From Russia With Love	Sean Connery	
1964	Goldfinger	Sean Connery	
1965	Thunderball	Sean Connery	Satellite
1967	You Only Live Twice	Sean Connery	
1969	On Her Majesty's Secret Service	George Lazenby	Satellite
1971	Diamonds Are Forever	Sean Connery	
1973	Live And Let Die	Roger Moore	Shuttle
1974	The Man With Golden Gun	Roger Moore	
1977	The Spy Who Loved Me	Roger Moore	
1979	Moonraker	Roger Moore	
1981	For Your Eyes Only	Roger Moore	
1983	Octopussy	Roger Moore	
1985	A View To A Kill	Roger Moore	
1987	The Living Daylights	Timothy Dalton	Satellite
1989	Licence To Kill	Timothy Dalton	
1995	Golden Eye	Pierce Brosnan	
1997	Tomorrow Never Dies	Pierce Brosnan	Satellite
1999	The World Is Not Enough	Pierce Brosnan	Satellite

ロジャームーアは7本の作品に出演しているにも拘わらず、第11作の「Moonraker」を除いて、宇宙開発には余り縁がありません。

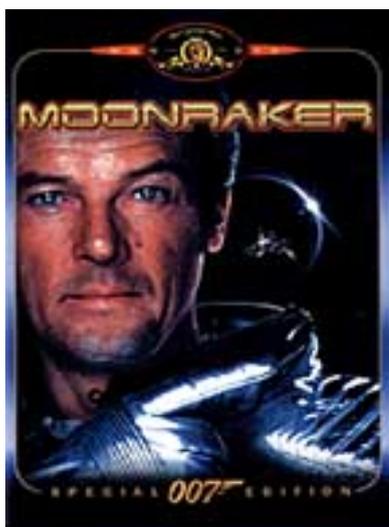
ロジャームーアが主演するようになってから、シリーズはまた原作にかなり忠実に映画化されるようになりました。また、第12作の「For Your Eyes Only」までがイワンフレミングのオリジナルジェームスボンドですが、それ

以降は、別の作家による映画化の為に作られた脚本によるものです。

第8作「Live And Let Die」は私が始めて社会人となった年、1973年の作品です。「人

は相身互い」という格言をもじって「死ぬのは奴等だ」という題名です。麻薬とトランプ占いがテーマですが、宇宙開発には全く縁がありません。今では当たり前のデジタル腕時計をジェームスボンドがロレックスの替りに腕に嵌めていました。第9作「The Man With Golden Gun」も舞台がバンコクになりますが、宇宙関係は顕われません。Thaicom-1のサービスが始るのはこの20年後です。1974年の作品です。私事ですが、この年の4月に結婚、12月に大坂から東京に転勤になり、これ以降、宇宙開発の仕事に従事することになりました。

第10作（1977年）「The Spy Who Loved Me」もロシアと英国のスパイが協力して盗まれた原子力潜水艦を取り戻すお話であり、宇宙よりも海が舞台です。良く見ると映画の最初の方に宇宙に関係のある会話があります。「どうして潜水艦の航路を見つけたのか」という質問に対し、Qが「人工衛星だよ。人工衛星で潜水艦の熱を検知し、航路を割り出したのだ」と答えるシーンがあります。日本ではこの年の12月15日実験用中容量静止通信衛星(CS)が米国のデルタロケットにより打ち上げられ、「さくら」と命名されました。四半世紀も昔の事です。



Moonraker の DVD

第11作（1979年）「Moonraker」は宇宙そのものです。ジャンボジェットに搭載されたスペースシャトルが盗まれる場面から映画が始ります。余談ですが、NASAがスペースシャトルの郵送に使用したジャンボジェットは日本航空からの払い下げとのこと。日本航空の整備状況が非常に良かったので採用されたとJALの機関誌「Agora」に書かれていました。宇宙飛行士の訓練装置、ロケット、他、宇宙開発に関するものが数多く登場します。気になるのはMoonrakerの顔つきやシャンティイーの館に良く似た住まいから、即、フランス人を連想しています。米国はこの時代からフランスを宇宙開発のライバルと意識していたのでしょうか。

第12作（1981年）「For Your Eyes Only」は盗まれた英国の暗号装置を取り戻す為、ジェームスボンドが活躍します。舞台はギリシアのエーゲ海であり、これも宇宙よりも海が舞台です。この作品は映画の最初と最後に宇宙に関係のある会話があります。「ロシアのスパイ衛星のデータです」という冒頭の会話と、任務終了したジェームスボンドに英国のサッチャー首相らしき人が労いの言葉を書ける時、「衛星電話の準備が出来ました」という会話です。この二言のみが宇宙開発との関係です。15機製造されたIntelsat-V衛星が打ち上げられたのが80年代です。ボンドが用いた腕時

計タイプの携帯衛星電話はまだ登場していませんが、衛星通信は我々の生活に入ってきました。

第13作(1983年)「Ocutopussy」はインドのタジマハールは登場しますが、宇宙とは全く関係がありません。米ソの緊張緩和を妨げようとする陰謀に、謎の女性 Octopussy が巻き込まれます。サーカス団が活躍します。1983年はインド宇宙局 (Indian Space Research Organization) が Apple 衛星、INSAT-1a の相次ぐ失敗にもめげず、INSAT-1b を成功させた年です。INSAT 衛星シリーズはその後国産化路線の 2 シリーズ、3 シリーズと続き、INSAT-3 では INTELSAT にトランスポンダをリースする段階にまで成長を遂げました。現在 INSAT-4 シリーズが計画されており、広大な国土の通信インフラ構築の一翼を担っています。

第14作(1985年)「A View To A Kill」は私の大好きな街であるパリとサンフランシスコが舞台です。人工地震にてシリコンバレーを乗っ取ろうとする計画を阻止すべく、ジェームスボン드가活躍します。金門橋での格闘シーンは圧巻です。但し、宇宙は全く登場しません。シリコンバレーにはロッキードマーチン社、スペースシステムロラール社、NASA の AMES リサーチセンター等、宇宙関係の機関・会社が沢山あります。但し、映画には全く登場しません。1985年は INTELSAT-VA、SATCOM-K1、TELSTAR-3、GSTAR、ASC-1、ANIK-C、BRASILSAT-1 など数多くの衛星が打ち上げられ、また、打ち上げ失敗もあった年です。衛星関係者は多忙で映画どころではなかったのでしょうか。

以上がロジャームーアがジェームスボンダを演じたシリーズです。

次回はティモシーディルトンとピエースブロスナンのシリーズについて纏めます。